一 般 質 問 通 告 書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和５年８月２２日

多摩市議会議員　岩永ひさか

多摩市議会議長　三階　道雄　殿

質問項目
１　持続可能な市政運営について
～「量から質」への転換はどのように図られてきたか

答弁者

市長・教育長等

受付	令和　　年　　月　　日	No.
	午前・午後　　時　　分	

項 目 別 質 問 内 容

1　持続可能な市政運営について

～「量から質」への転換はどのように図られてきたか

2012年度の施政方針を結ぶ言葉で、阿部市長は「今、市民生活を守り、新たな行政需要に対応するためには、行政サービス全般にわたって量から質へ転換していくことが求められています。将来世代に引き継げる持続可能な財政構造へ転換を図り、みんなが笑顔でいのちにぎわう多摩の未来に向けて、不退転の覚悟で改革の取り組みを進めてまいります。「このまちの主役は私たち市民です」あれもこれも求める時代から、必要なものを選択し、地域で豊かさを分かち合える社会をめざして、まちづくりを進めて行く所存です。」と述べられました。それに対する代表質問に対し、「各種行政サービスにおける「質」と「量」はともに重要な要素であり、基本的な認識として、両者の適切なバランスが必要なものと考えています。特に、多摩ニュータウン開発により整備された本市の道路、橋梁、公園などの都市基盤、各種公共施設については、質・量ともに高い水準にありますが、引き続き非常に厳しい状況が見込まれる財政状況の中では、これまでどおりの質と量を維持していくことは極めて困難です。今回、施政方針の中でお示しした「行政サービスの量から質への転換」については、こうした問題意識に基づくものです。」「また、それぞれ異なる各事務事業における「量」と「質」を一言で示すことは非常に難しいものがありますが、サービスの供給量や金額などの定量的な物差しだけではなく、市民の皆さんの信頼感や安心感、充足感など、定性的な要素も含めた市民満足度を高める取り組みを「質の向上」ととらえ、行政が主体となって進めるサービスに限らず、一人ひとりの市民の皆さんの取り組みや、市民協働、地域との連携も含め、より費用対効果の高い手法で実現していきたいと考えています。」「安心して元気で暮らせるまちを目指した仕組みに転換していくことにより、経費の節減や事務事業の効率化といった「量」の削減のみにとらわれることなく、改革の先の「質の向上」を目指してまいります。」と答えておられます。

また、それに関連し、「行財政が今、直面している課題というのは、きちんと私はできること、できないことを市民の皆さんにもお話をしなければならないということです。これまでの行政として、それは歳入がふえていく、右肩上がりであれば、きちんとサービスができたものについても、その質をきちんととらえ直す仕事をしていかなければならないと思っています。」「量から質へという、このことについて市民の皆さんにもご納得いただけるように、しっかり公共施設について、いわゆる維持し続けることによって、後年度負担、子や孫の世代にツケを残すことのないように、ここで立ちどまってしっかり私たちのまちが持続可能なまちであるように、私としては身を投げ出して、市民の皆さんにご説明し、前へ進めていかなければならないと思っています。」

項 目 別 質 問 内 容

過去の議事録で「量から質」でワード検索をかけながら、当時のやりとりを思い出しながら、読み返してみましたが、10年前と現在と、私たちは行政サービスの「質」をどのように向上することができたでしょうか。

改めて、いくつかの観点でお尋ねし、現状に対し、共通の認識を持つため、以下質問いたします。

（1）行政サービスの「量から質」への転換を図れたと考える事例について伺います。

① 10年間の取り組み成果について具体的な事例としてあげられるものはいくつあるのか。

② また、市民に最も理解でき、納得されると考える具体的な事例について、費用対効果の分析の視点も合わせ、上位5つについてお伺いします。

③ そもそも「質」の向上に対する評価について、どのような指標を用い、捉え、評価し、分析し、把握をしてきたのか伺います。

（2）公共施設については指定管理者の導入による市民サービスの向上の視点と合わせ、指定管理者の工夫による新たな収入確保の視点を評価していくことも求められると思います。

① 直営施設では得られなかった点について、どのように捉え、費用対効果の分析を行い、評価につなげているのか伺います。

② 再開館したパルテノン多摩は経営基盤を強化することが求められ、新たな運営体制となりましたが、民間感覚を活かした理事長の経営手腕はどのように発揮されてきたのか、また、館長就任に対する評価も伺います。また、市民サービス向上の観点はもちろんのこと、市民文化の創造という視点の取組みに対する評価も伺います。

③ 公共施設の在り方問題については、従来のコミュニティエリアを前提にした議論ではなく、行政サービスの「量と質」という観点を持ち、見直すことが必要になると考えていますが、人口減少社会、高齢化の進展と福祉需要の増加の観点、あるいはこれからの時代を見据えたサービス需要も含め、図書館政策、児童館政策など将来の方向性や考え方の整理はどのように行われ、現時点では建物更新時の考え方を含め、どのように整理されているのか、伺います。地域協創の観点で、地域担当職員の配置も含め、今後に対する考え方を改めて伺いたいと思います。

項 目 別 質 問 内 容

【資料要求】

① 行政サービスの「量から質への転換」を図れた事例一覧（予算額、成果がわかるもの）。特にみどりのルネッサンスについては、「量から質」について具体的な数字で成果を示してもらいたい。

② 指定管理者による新たな歳入確保策と実施結果

③ パルテノン多摩の諸室ごとの利用料収入

④ リニューアルオープン記念として実施した事業ごとの収支及び招待状送付先及び招待客数内訳

⑤ 人口構造の変化、高齢化の進展に伴う福祉需要増加の見込み。現状を前提にした予測値（地区別、5年単位）

⑥ 図書館政策、児童館政策に対する今後の需要見込み、サービス提供と人員配置計画及び、財政計画。図書館司書採用・育成計画。児童厚生員採用・育成計画

⑦ 地域担当職員の今後の配置計画と活動計画

⑧ 再開館後のグリーンライブセンターについて、新たな歳入確保策と収支見込みについて現時点における将来計画